



すこやか通信



横須賀市医師会の活動

新型コロナウイルスワクチンについて

横須賀市医師会 公衆衛生担当理事
湘南山手つちだクリニック 院長

土 田 匡 明



このすこやか通信が発刊されている頃にはもう多くの市民の方が新型コロナワクチンの接種をされていると思われませんが、今回、新型コロナウイルスワクチンについて説明させていただきます。

現在、ファイザー社、モデルナ社、及びアストラゼネカ社の3つのワクチンが承認されております。(アストラゼネカ社のワクチンは原則40歳以上の方(他の新型コロナワクチンに含まれる成分に対してアレルギーがあり接種できない等)を対象としています。)通常は、ファイザー社又はモデルナ社のワクチンを接種となります。

いずれのワクチンも、高い発症予防効果と重症化予防効果が確認されています。デルタ株においても、従来株に比べると効果は劣りますが、それでも2回接種することにより、高い発症予防効果と重症化予防効果が期待できます。ただ、ワクチンの発症予防効果は100%ではないことを踏まえると、接種後も引き続き、感染対策を継続することが重要です。

接種後の主な副反応として、いずれのワクチンも、接種部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉痛、悪寒、関節痛等が報告されています。モデルナ社のワクチンの方がこれらの副反応の発生頻度が若干高く報告されているほか、接種から1週間くらい経った後に、接種した場所の痛みや腫れなどがみられることがあります。ただこのような副反応は多くが接種後数日以内に回復しています。ワクチンに高い有効性があることを考えると、ワクチン接種のメリットがデメリットを上回ると言えるでしょう。

また、稀な頻度でアナフィラキシーが発生したことが報告されています。アナフィラキシーが起きたときには、接種会場や医療機関ですぐに治療を行えるよう準備をしています。

ワクチンの効果は時間が経つにつれ徐々に低下して行きます。低下した抗体価を上げるために、海外では3回目の接種が行われている国もありますが、日本でも来年には3回目の接種が行われるかもしれません。

(令和3年8月31日記載)

発現割合	症状	
	コミナティ(ファイザー社)	モデルナ(武田薬品)
50%以上	接種部位の痛み、 疲労、頭痛	接種部位の痛み、 疲労、頭痛、筋肉痛
10~50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、 下痢、発熱、接種部位の腫れ	関節痛、悪寒、吐き気・嘔吐、 リンパ節症、発熱、 接種部位の腫れ、発赤・紅斑
1~10%	吐き気、嘔吐	接種後7日以降の 接種部位の痛みなど(※)

コミナティ:添付文書、COVID-19 ワクチンモデルナ:添付文書より

(※) 接種部位の痛みや腫れ、紅斑

在宅医療 (5)

秋谷潮かぜ診療所 院長 西村京子



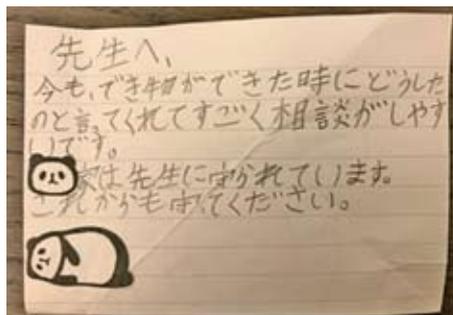
小児在宅医療

少子高齢化に伴い大人の在宅医療が徐々に浸透していく中、忘れてはならないのが病気や障がいを持った子供たちの安心した生活を支えるための小児在宅医療です。小児在宅医療を必要としている子供たちは、未熟児や先天性疾患のためNICU（新生児集中治療室）で一定期間過ごした後地域へ、先端医療で救命され小児科病棟で一定期間過ごしてから地域へ、もともと地域で過ごしていたが、年齢が大きくなるにつれて進行性疾患が重症化してきた子供たちなどです。人工呼吸管理、気管切開、経管栄養など医療的ケアが必要な子供たちが多く、お一人お一人の状態や個々に異なる家庭事情も考慮に入ると担当する在宅医には、大人以上の細やかな対応が求められるのも事実です。幸いなことに、横須賀市では、横須賀市立うわまち病院の小児科の先生方を始め、市内外の病院の小児科の先生方が、自宅では対応に手に余る場合には、すぐにご相談に乗ってくださり、その後ろだてがあるからこそ、内科専門医の我々でも安心して小児在宅診療ができます。そして、ご両親の不安やちょっとした変化を見逃さず、医療と看護と福祉の間を細やかに補ってくださるのが訪問看護ステーションです。その他、訪問リハビリや訪問服薬指導、成長に伴い通園や学校教育など多施設、多職種が大人以上に関わってきます。

“Effect of an Enhanced Medical Home on Serious Illness and Cost of Care Among High-Risk Children With Chronic Illness A Randomized Clinical Trial” JAMA December 24/31, 2014 Volume 312, Number 24 多職種連携による、継続的で包括的な小児の在宅医療支援は医療費を42%削減し、子どもの救急受診と入院頻度を半分に減らすことが示されたと報告があります。実際に訪問診療を受けているお母さんからの年賀状には「何かあったら先生や看護婦さんと繋がっている、と言う安心があるから家で過ごせます」とありました。このご家庭では、訪問診療以前は熱発などがあるたびに不安でいたたまれず、何度も救急で病院受診していましたが、現在は少々の熱発は慌てることなく吸入や解熱剤やクーリング、水分摂取などを適切に行い落ち着いて過ごすことができます。入院回数も1/3となりました。

また、訪問診療を受けている小児の妹さんからお手紙を頂きました。「いつも私が不安なことや心配していることを先生に聞いた時などにとても丁寧に聞き、そのことの答えを出して下さりありがとうございます。私は先生にいろいろなことを相談している時に心が安心する様な、ほっとした気持ちになります。あと先生が話したことによっていろいろな事、環境がだんだん良い方向に変わっていき毎日過ごすことができる様になりました。そしていつも一人だったのに友達がとてもたくさんできました。絶対に先生の支えがなかったら今の自分はいないと心から確信しています。また先生にいろいろな事を相談したりして、お世話になってしまうかもしれないんですけどこれからも私たち家族を見守ってください。よろしくお祈りします。」

小児在宅医療は、重い障害や病気を持った子供たちが、家族と共に成長し、家族もさらに成長し、命の深い意味を理解し、遅く楽しく生きてく過程をご一緒に体験させていただけます。大人の診療とは、また異なった「いのちの喜び」の源泉です。私自身、兄弟姉妹に障がい者を持つ一人として、子供たちを診ながら当時の私の戸惑いとあきらめと受容と成長を振り返るようで何とも興味深い。頂いた手紙は宝物です。



循環器科 (4)

横須賀市立うわまち病院小児医療センター 宮本朋幸



こどもの心臓病（先天性心疾患）について

生まれながらに心臓に病気を持っているお子さんがいます。①心臓の壁に穴があいている。②心臓とつながる血管の走行が異なっている③心臓の弁や血管が狭くなっている。などに大きく分けられます。出生直後から症状が出て、生後数日から1か月以内に手術が必要な疾患から、全く無症状で老年期を迎えて天寿を全うできる疾患まで様々です。子どもの心臓病が発見されるきっかけとしては、出生直後の産院、乳幼児健診、かかりつけの先生に受診した際に異常を発見される、学校心臓検診などがあります。そこから「小児循環器外来」がある病院に紹介され、診断が確定し治療方針が決定されることとなります。「自分の子どもが心臓病に」というと非常に心配になると思いますが、近年、治療法も発達し、心臓手術の成績も向上し、なかなか助けることが出来なかった子どもたちの心臓もしっかり修復されることも多くなりました。しっかり担当の医師の話を聞き、心配な点をできるだけ減らせるようにしましょう。手術までや手術後の心臓の管理は「小児循環器外来」が行いますが、日常の風邪や予防接種などの健康管理はかかりつけの先生にしっかりお願いすることも大切です。地域の医師と大きな病院の医師が協力してお子さんの成長を見守っていくことが重要です。

重症の心疾患を持ったお子さんでも成人して就職し、家庭を持ったり、お子さんを持ったりしている方も多くなりました。心疾患を有し、成人していく方は毎年1万人ずつ増加していくとされています。そういった方も定期的に受診が必要で、かかりつけの先生や成人の診療科との連携が大切になります。その役割を担う「成人先天性心疾患外来」が日本各地の主要病院で立ち上がっていて、うわまち病院にもその外来があります。生まれながらにして心臓病をもった子どもたちの人生が、より実り多きものになるよう、かかりつけの先生・小児循環器医・基幹病院の医師は協力し合ってシステムを作り上げています。もし、ご自分のご家族が先天性心疾患と診断されたりしたら、地域での医療連携を構築できるように、かかりつけの先生にご相談してみると良いでしょう。

横須賀市救急医療センター



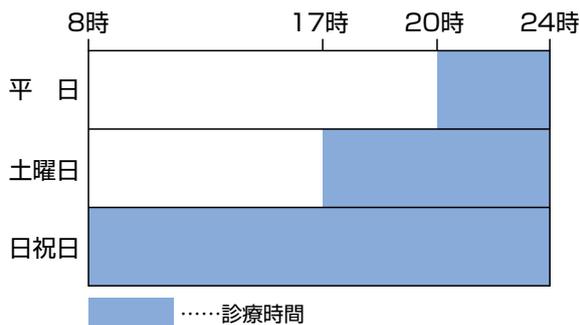
診療科目 内科・小児科・外科

〒238-0005 横須賀市新港町1-11

☎824-3001

横須賀市救急医療センターは、横須賀市医師会が管理・運営をしております。
横須賀市医師会では、市民の皆様安心していただける
質の高い医療を提供しております。

診療時間



年末年始 12月29日16時～
1月4日8時まで24時間診療

案内図



横須賀市医師会は、市民の皆様により良い医療を提供できるよう

これからも努力していくつもりでありますので、

よろしくご支援をお願いいたします。

詳しいことは横須賀市医師会ホームページ

<http://www.yokosukashi-med.or.jp>

にアクセスしていただきますようお願いいたします。

横須賀市医師会
モバイルサイト



<http://yokosukashi-med.or.jp/mobile/>

一般社団法人 横須賀市医師会

〒238-0005 横須賀市新港町1-11 TEL 046-822-0542 FAX 046-823-4534